



幸運のラーメンが名物の仁叟寺の「大節分会」



前日は役員が豆と餅を袋詰め



様々な工夫を凝らした節分会 群馬県・曹洞宗仁叟寺

ませんが、県外から来てくれる方も増え、意義は大きいです。昭和村とお寺を知ってもらうために続けたい」と榎本住職。住職の熱意と地元の人々の協力が合わさると、伝統行事も村おこしにすることができると教えられる。

毎年二千人も訪れるのが、群馬県高崎市にある曹洞宗仁叟寺(渡辺啓司住職)

の「大節分会」だ。参詣者が楽しめるような

様々な工夫や心配りが凝らされているので参考になる。同寺は以前から節分行事をしてきたが、平成六年に建立した文殊堂が豆まきにちょうどよかったため、二月三日を文殊菩薩の縁日とし、翌年から更に賑やかに節分会をすることにした。渡辺龍道副住職(三十八歳)はこう話す。「最近では地域の伝統行事が減ってしまい、若い人たちから、節分は幼稚園以来していない」という声を多く聞きます。地域の方々と共に伝統行事を守り伝えるのもお寺の大事な役目ではないでしょうか」事前の準備や二月三日の当日は総代や役員約六十人が総出で担う。駐車場の整

境内では青年会のバザーもある

ラーメンの袋(約二百個)が宙を舞う。「拾うと幸運をつかめる」と評判だ。布団店の協賛で布団や枕が飛ぶ年もある。お寺の伝統行事といっても、ちょっとしたアイデアが親しみを生むと分かる。三時半からは「チビっ子節分」も行われる。大勢が集まる豆まき

理、祈禱の案内、お守りの授与など役割分担をする。豆まきは文殊堂を舞台にして昼の十二時半、二時、三時の三回の祈禱の後にそれぞれ行われる。豆はお餅とセットで袋詰めしてまく。境内が汚れず、貰った人にとっても嬉しい工夫だ。前日に役員が集い、千五百袋作ると言う。加えて八畳の高さがある文殊堂の舞台からは豆だけではなく様々なものがまかれるのがお楽しみ。番号が書かれたカラーボール(約三百個)はくじ付き。特賞は伊香保温泉のペア宿泊券で、お茶の詰め合わせ、ワイン、調味料セットなどが当たる。名物が「空飛ぶラーメン」。即席



本堂内で行われる宝蔵院の豆まきは鬼も迫真



バイキングの食事会で親交を深める

先着二百人に豆とお菓子の詰め合わせを手渡してプレゼントするという。ぜひ取り入れたい工夫だ。

境内では御詠歌の「梅花講」の人たちが温かい甘酒とお茶を準備し、無料で振る舞っていた。全員にもれなく景品が当たる「大福引抽選会」もある。総代がサランラップなどの日用品を用意し、提供してくれるという。群馬県曹洞宗青年会によるバザーも出店。売り上げの一部は

に子供が参加するのは危険なので、

「これまで節分には芸能人を呼び、盛大に豆まきをしてきましたが、どうも内容が薄いと疑問でした。そこで檀家さんと触れ合い、親交を深めることのできる行事に変更することにしました」

こう話すのは横浜市、真言宗大覚寺派宝蔵院の塩澤善弘住職（三十三歳）だ。不特定多数を集めていた節分行事を数年前、思い切って檀家を中心にする方法にしたのだ。というのも同寺には様々な問題があり、平成十九年に塩澤住職が晋山するまでは住職が頻繁に交代して、檀家の心が離れてしまっていたからだ。

「この日はお世話になっている方々へのお寺からのおもてなしがテーマです。思い切り楽しんでいただきたい。檀家さん同士も仲よくなっていきたいです」という。

二月三日は午前十一時、本堂での護摩法要から始まる。続いて厄年の人が内陣に上がり、本堂内で豆まき。赤鬼と青鬼も登場し、迫真の動きで暴れ回る。鬼の衣装は行事を始めるのに合わせて新調し、制作を依頼した衣装会社からプロの役者

東日本大震災の被災地へ寄付される。

境内では鬼の姿の人が参詣者の案内や誘導をしているのもユニークだ。

「若い人たちが大勢来てくださるようになったのが有り難いです。これからはお寺に来てよかったと感じていただける行事にしていきたい」と渡辺副住職。

同寺は平成二十五年、市に提案して災害時の避難所に認定された。発電機や携帯トイレ、災害備蓄セットなどを備え、地元の人たちと防災訓練も実施。安心を与えている。行事もそうだが、日頃から積極的に門戸を地域に開くことはこれからのお寺にとって何より大事だろう。

東日本大震災の被災地へ寄付される。

境内では鬼の姿の人が参詣者の案内や誘導をしているのもユニークだ。

「若い人たちが大勢来てくださるようになったのが有り難いです。これからはお寺に来てよかったと感じていただける行事にしていきたい」と渡辺副住職。

同寺は平成二十五年、市に提案して災害時の避難所に認定された。発電機や携帯トイレ、災害備蓄セットなどを備え、地元の人たちと防災訓練も実施。安心を与えている。行事もそうだが、日頃から積極的に門戸を地域に開くことはこれからのお寺にとって何より大事だろう。

檀家をもてなす行事に変える

神奈川県・真言宗大覚寺派宝蔵院

節分の日にお寺がしている創意工夫

大人気の5カ寺の節分行事に学ぶ

節分といえば芸能人を呼ぶ大寺の豆まきが注目されがちだ。だが普通のお寺でも工夫しだいで多くの人に喜んでもらえる催しはできる。活況する節分行事を取材した。

様々な工夫を凝らした節分会 群馬県・曹洞宗仁叟寺

毎年二千人も訪れるのが、群馬県高崎市にある曹洞宗仁叟寺（渡辺啓司住職）の「大節分会」だ。参詣者が楽しめるような様々な工夫や心配りが凝らされているので参考になる。同寺は以前から節分行事をしてきたが、平成六年に建立した文殊堂が豆まきにちょうどよかったため、二月三日を文殊菩薩の縁日とし、翌年から更に賑やかに節分会をすることにした。渡辺龍道副住職（三十八歳）はこう話す。「最近では地域の伝統行事が減ってしまい、若い人たちから“節分は幼稚園以来していない”という声を多く聞きます。地域の方々と共に伝統行事を守り伝えるのもお寺の大事な役目ではないでしょうか」

事前の準備や二月三日の当日は総代や役員約六十人が総出で担う。駐車場の整理、祈祷の案内、お守りの授与など役割分担をする。豆まきは文殊堂を舞台にして昼の十二時半、二時、三時の三回のご祈祷の後にそれぞれ行われる。豆はお餅とセットで袋詰めしてまく。境内が汚れず、貰った人にとっても嬉しい工夫だ。前日に役員が集い千五百袋作るという。加えて八メートルの高さがある文殊堂の舞台からは豆だけではなく様々なものがまかれるのがお楽しみ。番号が書かれたカラーボール（約三百個）はくじ付き。特賞は伊香保温泉のペア宿泊券で、お茶の詰め合わせ、ワイン、調味料セットなどが当たる。名物が「空飛ぶラーメン」。即席ラーメンの袋（約200個）が宙を舞う。「拾うと幸運をつかめる」と評判だ。布団店の協賛で布団や枕が飛ぶ年もある。お寺の伝統行事といっても、ちょっとしたアイデアが親しみを生むと分かる。

三時半からは「チビっ子節分」も行われる。大勢が集まる豆まきに子供が参加するのは危険なので、先着二百人に豆とお菓子の詰め合わせを手渡しでプレゼントするというぜひ取り入れたい工夫だ。

境内では御詠歌の「梅花講」の人たちが温かい甘酒とお茶を準備し、無料で振る舞っていた。全員にもれなく景品が当たる「大福引抽選会」もある。総代がサランラップなどの日用品を用意し、提供してくれるという。群馬県曹洞宗青年会によるバザーも出店。売り上げの一部は東日本大震災の被災地へ寄付される。

境内では鬼の姿の人が参詣者の案内や誘導をしているのもユニークだ。「若い人たちが大勢来てくださるようになったのが有り難いです。これからもお寺に来てよかったと感じていただける行事にしていきたい」と渡辺副住職。

同寺は平成二十五年、市に提案して災害時の避難所に認定された。発電機や携帯トイレ、災害備蓄セットなどを備え、地元の人たちと防災訓練も実施。安心を与えている。行事もそうだが、日頃から積極的に門戸を地域に開くことはこれからのお寺にとって何より大事だろう。